

**重点課題**

- 【課題1】文章に表れているものの見方・考え方を捉え、自分の考えをもつ。（「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、そのような接し方をどう思うかを書く。）（【設問3-四】読む能力（正答率 25.3%）  
 【文章の一部】から「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して描くことができている生徒が多い。（正答率 44.2%）（無答率 25.5%）
- 【課題2】書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係を注意して書く。（意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。）  
 【設問2-一】書く能力（正答率 25.6%）  
 類型以外の解答が多く、段落相互の関係を理解していない割合。（44.2%）

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）**

段落の役割について学習させ、読んだ文章の段落の役割を考えさせる。  
 その上で、相互の関係に注意させながら【課題1】の自分の考えを書かせる。

※ 小中一貫した取組については、文章を読んで自分の考えを根拠をもって書く活動（結論—根拠—理由付け）を取り入れる。

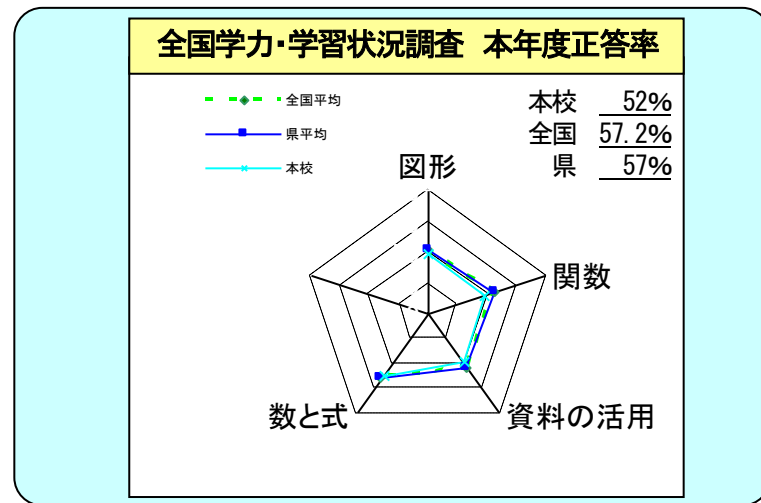
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2・3年生 期末試験		3年生 学年末試験	2年生 学年末試験	
目標値			50%		50%	60%	
実施後数値			35%		44%	61.5%	

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2・3年生 期末試験			2年生 学年末試験	
目標値			50%			60%	
実施後数値			32%			62%	

**来年度に向けて**

文章に表れているものの見方・考え方を書かせるとき、キーワードを見付け、そこから考えや表現を広げていく指導をする。また、文章全体を俯瞰できるよう要約しながら、段落相互の関係を見てくように指導する。



**重点課題**

- 【課題1】 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。(設問6(3)) 数と式 (平均正答率 18.6%)  
事象の特徴を数学的に捉えることを苦手としている生徒が多い。(無答率 37.2%)
- 【課題2】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(設問7(2)) 関数 (平均正答率 18.6%)  
グラフは直線になることは理解できているが、問題解決の方法を数学的に説明することができない。生徒が16.3% (無答率 37.2%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

- 【課題1】 事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導することが必要である。数の性質を考察する場面において、文字を用いて表現し、文字を用いた式の意味を読み取るような授業を展開し、問題の条件を変えるなど統合的・発展的に考察することができるようにする。
- 【課題2】 日常的な事象を理想化・単純化して、その特徴を的確に捉えることができるようにする。様々な問題を、数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明することができるように指導する。
- ※ 小中一貫した取組については、基礎的・基本的な数学用語を繰り返し学習させて定着を図るとともに、必要な情報を取り出したり、複数の資料を関連付けて分析したりする学習活動を採り入れる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 学期末試験			1・2年生 学年末試験	
目標値			60%			60%	
実施後数値			49.8%(1年) 56.3%(2年)			56.1%(1年) 59.3%(2年)	

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 学期末試験			1・2年生 学年末試験	
目標値			60%			60%	
実施後数値			53.4%(1年) 62.3%(2年)			59.1%(1年) 65.8%(2年)	

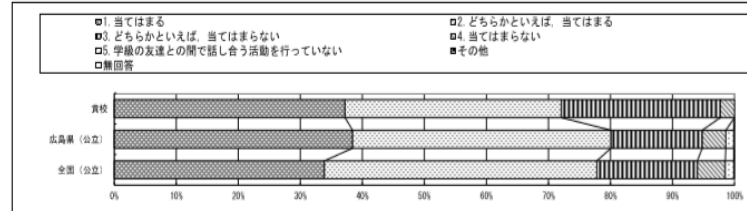
**来年度に向けて**

全国学力調査では「説明すること」について課題があった。改善のために、基礎・基本の定着が大切である。数学的用語の理解や数量の関係等を一般化して考え、日常生活と結びつけ、理想化・単純化しよう、特徴を的確に捉えることができるような問題を仕組んでいく。

## 質問紙調査（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）（児童生徒学習意識等調査：生徒質問紙調査）

## (1) 生活・学習

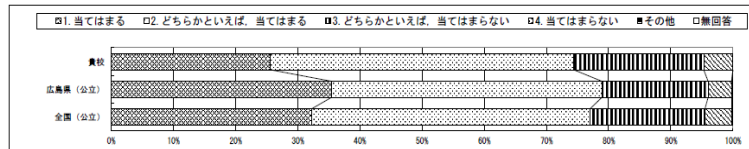
質問番号	質問事項										
(37)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択枝	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	37.2	34.9	25.6	2.3	0.0					0.0	0.0
広島県(公立)	38.4	41.6	14.7	3.3	1.3					0.0	0.1
全国(公立)	33.9	43.9	16.2	4.5	1.4					0.0	0.1



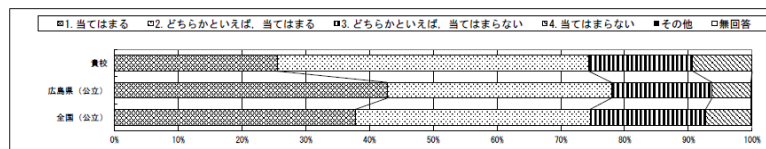
	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」との問いに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合が72.1%にとどまっている。	○「考える授業づくり」の工夫 ・思考を深めるための授業構成 ①生徒が考えたい課題の設定 ②生徒が考え、その考えを表出する場の設定 ③生徒が、考えの変容（成長）を自覚する振り返り ・主体的な思考を促し、高める発問 ・タブレット等のICT機器の効果的な活用	3	80%	生徒アンケート	学年末	87.5%

## (2) 教科

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている。



数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている。」に当てはまると回答した生徒は25.6%だった。（県35.4%）	授業の中で、様々な文章を読ませたり、それに応じて根拠を明確にした振り返りを書かせたりする。また、自分の考え、根拠を明確にして文章を書かせていく。	2	50%	生徒アンケート	学年末	35.2%
全国・学習意識等	「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の肯定的回答は74.4%であった。（県79.0%）	授業の中で、実体験を伴う場面を想起させるような題材を、課題として提示して社会生活に結びつけられるよう仕組んでいく。	2	80%	生徒アンケート	学年末	86.6%